都市化・バブル・新世紀・まつり・ヒロシマ・に見る時代と人々。

Tsuchida Hiromi's
Nippon

土田ヒロミの ニッポン

2007.12.15 sat - 2008.2.20 wed

| 開館時間 | 10:00～18:00［木・金は20:00まで、入館は閉館30分前まで］
但し12/28(金)は18:00閉館、1/2、3、4は11:00～18:00開館
| 休館日 | 月曜日（但し祝日の場合は開館し翌日休館）、年末年始（12月29日～1月1日）
| 観覧料 | 一般500(400)円、学生400(320)円、中高生・65歳以上250(200)円
( )は20名以上の団体料金　※小学生以下、障害をお持ちの方とその介護者は無料、第3水曜日に観覧する65歳以上は無料
※東京都写真美術館友の会会員は無料
| 主催 | 東京都 東京都写真美術館、産経新聞社
| 協賛 | 日鉱金属株式会社 株式会社ニコン ニコンカメラ販売株式会社 EPSON POLA FUJIFILM
| 後援 | サンケイスポーツ、夕刊フジ、フジサンケイビジネスアイ、Izal、SANKEI EXPRESS

東京都写真美術館
恵比寿ガーデンプレイス内 http://www.syabi.com

土田ヒロミの ニッポン

Tsuchida Hiromi's
Nippon

Times and People:
Urbanization, the bubble,
the millennium, the festivals,
Hiroshima

東京都写真美術館では、重点収集作家である土田ヒロミの個展を開催します。
1960年代終わりから写真家として本格的な活動を開始した土田は、日本の土俗的な文化、ヒロシマ、高度経済成長、バブル経済などのテーマを通して、変貌する日本の姿を撮り続けています。土田の視点はつねにユニークで、作品ごとに明確なコンセプトを持ち、日本という国に対する問題意識を実験的ともいえるアプローチで表現してきました。
「自己表現」と「徹底的な記録」の両面を行き来することで進化を遂げてきたこの作家の作品からは、社会性と時代性の背後に、日本が抱える問題を汲み取ることができます。
ここに東京都写真美術館が重点的にコレクションした土田作品に加え、最新作を含めた氏の作家活動の軌跡を一堂に紹介します。
混沌とした世相のなか、土田作品は日本と自己の関係を見直す何らかのヒントをくれることでしょう。

都市化・バブル・新世紀・まつり・ヒロシマ・に見る時代と人々。

Part I 日本人

「俗神」—過去に繋がる私—（1968-75）

1968年から75年に、日本各地を撮影取材。71年、フリーランスになる際、まず自分自身を検証しようと、日本の土俗に向かっていったなかから生まれた作品である。日本の古い宗教的な空間や祭りの空間—富士山、伊勢神宮、吉野、青森など土俗的かつ時代をまたいで継承した文化、人々を捉えた。

「砂を数える」—拡大する経済　都市化する私—（1975-89）

1975年から89年までに日本各地で撮影された日本人の群集としての姿。首都圏を中心に撮りためたシリーズで、福井の山村を離れ、都市化していく自分自身の存在のありようを対象化する試みから進められた。日本人が、80年代前後の時期、どのような機会に「群集」を成しているのか見て取ることができる。

「パーティー」—バブル経済　踊る私—（1980-90）

1980年から90年まで、バブル経済に沸く日本の異常ともいえる一時期に、当時どこかしこで開かれていた「パーティー」。ハレの舞台に、華やかな衣装で身を包み、派手なメイクとヘアスタイルで夜な夜な出没する人々の姿を捉えている。「俗神」「砂を数える」に通ずる、日本の群れの姿・本質といったものがここにも表されている。

「新・砂を数える」—新世紀　Fake化する私—（1995-2004）

「砂を数える」のカラーによる続編。日本のバブル経済が一挙に崩壊していく中、時代のバーチャル化様相を考察している。一つのベクトル方向に動かず、互いに距離を取って群れる姿から、以前の「群れ」のかたちが確実に変質してきていることを如実に捉えている。デジタル技術を採り入れ、予測不能の現代像を展開している。

「続・俗神」—日本のまつりを記号化—（1980-2004）

「俗神」の続編として、祭りをカラーで制作。祭りの形を記号的に捉える。民俗学的な分類より、形のおもしろさに重点が置かれている。大判フィルムを使用して、スタジオ・ポートレイトのスタイルを戸外で実行。形はかわっても断絶せずに続いてきた日本人文化の厚み、日本人文化の多様性を伝える。

Part III Dailyセルフポートレイト

「Aging」—時間を巡る私—（1986年7月～）

1986年から毎日、自分の顔を記録として撮りはじめる。自分の老化に気づいたことが作品制作のきっかけとなった。老人社会や老化の問題を考えるとき、老人ホームの人たちを撮るありきたりのやり方ではなく、セルフポートレイトを定点観測的に撮影する方法を考え出し、現在まで続けられている。

Part II ヒロシマ

「ヒロシマ三部作」（1976-94）

1973年頃より手がけた3部作。被爆体験記「原爆の子」（1951、岩波書店）に出会ってから、数年かけて30-40代になった原爆の子の消息をたどり、107人に取材した「ヒロシマ1945～1979」。さらに原爆遺跡を記録した「ヒロシマ・モニュメント」。広島平和記念資料館の遺品、原爆資料を記録した「ヒロシマ・コレクション」へと続く。

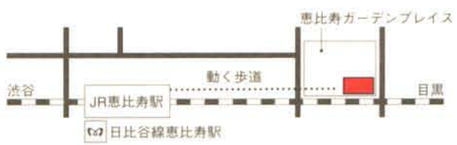
「ヒロシマ1945～1979」

「ヒロシマ・コレクション」（1982～94）

「ヒロシマ・モニュメント」（1979～83）

［関連イベント］
会期中イベントを計画しています。
内容、申し込み方法など詳細は東京都写真美術館のホームページでご確認ください。

［フロアレクチャー］
会期中、毎月第2・第4金曜日14:00より担当学芸員による展示解説を行います。
（展覧会チケットをお持ちの方はどなたでもご参加いただけます）



〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内 TEL:03-3280-0099
JR恵比寿駅東口改札より徒歩7分。東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩10分。
当館には専用駐車場はございません。お車での来館の際は近隣の有料駐車場をご利用ください。

東京都写真美術館 3階展示室
恵比寿ガーデンプレイス内 http://www.syabi.com